

## 第1章 あいち小児保健医療総合センター 令和3年度保健活動概要

## I. 保健センター活動概要

保健センターの主な機能は①相談・支援、②教育・研修、③調査・研究、④情報提供の4つに分類される。本章ではそれぞれの機能に関して、今年度の活動の特徴を示し、その後それぞれの実績の概要を示す。

## 1. 相談・支援

- ・ 保健医療相談は、外来や病棟など医療部門の受診患者・家族からの療育・療養に関する相談が高い割合を占めている。救急部門開設（2016年2月）以降事故予防に関する相談が増加し、周産期部門の開設（2016年11月）以降、新生児や産婦からの相談が増加している。
- ・ 新型コロナウイルス感染症流行拡大に伴い外来受診者数や入院患者数が減少した際でも、このような相談対応や患者支援の依頼件数の減少はほとんど認められず、センターの病院機能に大きく貢献した。
- ・ 子どもの病気や事故に対する相談と子育て相談の双方に対応している時間外電話相談は2020年の新型コロナウイルス感染症流行拡大に伴い一時中断し、その後回線及び実施日を減らして再開し継続している。その為、対応した相談件数は減少したが、未だ相談ニーズに答え切れていないと考えられる。

## 2. 教育・研修

- ・ 新型コロナウイルス感染症流行が持続する中で対面での研修が困難な状況が持続している。
- ・ 一部の研修は完全オンライン・ハイブリッド形式を取り入れ、結果として様々な理由でこれまで参加が困難であった参加者にも参加機会を提供することができた。

## 3. 調査・研究

- ・ 様々な厚生労働科学研究等の外部助成金による研究活動を行なった。
- ・ 日本小児保健協会及び日本小児科学会の委員会活動を行なった。
- ・ 学術集会は新型コロナウイルス感染症流行拡大に伴いオンライン開催が多かったが、例年と同数程度の学術集会発表を行なった。

## 4. 情報提供

- ・ ホームページやパンフレットによる情報提供を継続し、センター受診患者増加への貢献している
- ・ 科学的根拠に基づいた幅広い対象への情報提供をおこなっており、今年度から運用が開始された愛知県母子健康診査マニュアル第10版もダウンロード可能である。

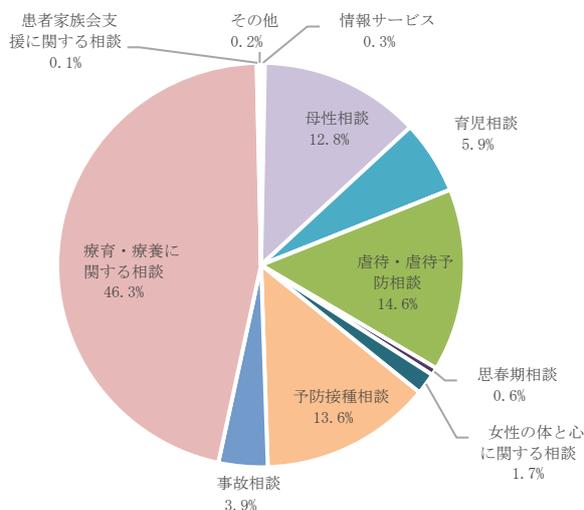
II. 実績概要

1. 相談・支援

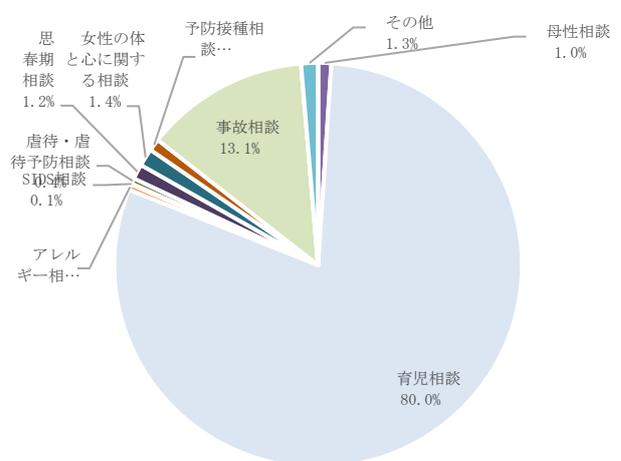
2021 年度分野別相談件数(保健医療相談、時間外電話相談)

相談分類	保健医療相談		時間外電話相談	
	件数	割合	件数	割合
調査・研究	0	0.0	0	0.0
教育・研修	0	0.0	0	0.0
情報サービス	21	0.3	0	0.0
母性相談	898	12.8	14	1.0
育児相談	413	5.9	1,079	80.0
アレルギー相談	0	0.0	6	0.4
遺伝相談	0	0.0	0	0.0
SIDS 相談	0	0.0	1	0.1
虐待・虐待予防相談	1,027	14.6	6	0.4
思春期相談	43	0.6	16	1.2
女性の体と心に関する相談	120	1.7	19	1.4
予防接種相談	959	13.6	13	1.0
事故相談	274	3.9	176	13.1
療育・療養に関する相談	3,257	46.3	0	0.0
患者家族会支援に関する相談	9	0.1	0	0.0
ボランティア	0	0.0	0	0.0
その他	15	0.2	18	1.3
未分類	0	0.0	0	0.0
総 計	7,036	100.0	1,348	100.0

保健医療相談



時間外電話相談



## 2021年度 相談方法別実施件数

相談方法名称	面接	電話	訪問	文書・メール	カンファレンス等	計
調査・研究	0	0	0	0	0	0
教育・研修	0	0	0	0	0	0
情報サービス	4	17	0	0	0	21
母性相談	256	177	0	61	404	898
育児相談	179	221	0	7	6	413
アレルギー相談	0	0	0	0	0	0
遺伝相談	0	0	0	0	0	0
SIDS 相談	0	0	0	0	0	0
虐待・虐待予防相談	357	579	0	17	74	1,027
思春期相談	12	28	0	0	3	43
女性の体と心に関する相談	35	16	0	69	0	120
予防接種相談	318	628	0	4	9	959
事故相談	141	133	0	0	0	274
療育・療養に関する相談	1,751	1,024	0	132	350	3,257
患者家族会支援に関する相談	6	3	0	0	0	9
ボランティア	0	0	0	0	0	0
その他	4	11	0	0	0	15
未分類	0	0	0	0	0	0
総計	3,063	2,837	0	290	846	7,036
比率	43.7	40.3	0.0	4.1	12.0	100.0

## 2021年度 相談者と相談対象者の続柄別の件数

相談者	保健医療相談	時間外電話相談
本人	312	115
配偶者	4	2
母	2,228	1,174
父	293	41
きょうだい	1	0
祖父母等	35	12
母子保健関係者等	1,114	0
児童相談所等	140	0
医療機関	45	0
学校等	61	0
院内関係者	2,440	0
その他・不明	363	4
総計	7,036	1,348

第1章 保健活動概要

2021年度 相談者の地区別相談件数

地区名称	地区	保健医療相談		時間外電話相談	
		件数	割合	件数	割合
名古屋市		903	12.8	353	26.2
知多地区	大府市	540	7.7	25	1.9
	東浦町	327	4.6	5	0.4
	東海市	240	3.4	20	1.5
	知多市	209	3.0	11	0.8
	他の知多	700	9.9	32	2.4
西三河地区	刈谷市	333	4.7	70	5.2
	豊田市	441	6.3	29	2.2
	他の西三河	1,107	15.7	128	9.5
東三河地区	東三河	281	4.0	85	6.3
尾張東部地区	尾張東部	201	2.9	55	4.1
尾張西部地区	尾張西部	540	7.7	228	16.9
他県		478	6.8	139	10.3
その他		736	10.5	168	12.5
総計		7,036	100.0	1,348	100.0

2021年度 院内各診療科からの相談件数

診療科名	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
総合診療科	64	1.9%	138	2.9%	254	5.1%	273	4.3%	365	5.8%
感染・免疫科	61	1.8%	107	2.2%	82	1.6%	100	1.6%	155	2.5%
腎臓科	197	5.8%	263	5.5%	179	3.6%	338	5.3%	372	5.9%
アレルギー科	149	4.4%	393	8.2%	268	5.4%	255	4.0%	166	2.6%
内分泌科	196	5.8%	144	3.0%	56	1.1%	119	1.9%	199	3.1%
予防診療科							3	0.0%	9	0.1%
神経科	456	13.4%	463	9.7%	584	11.7%	525	8.2%	620	9.8%
心療科	347	10.2%	23	0.5%			90	1.4%	64	1.0%
循環器科	656	19.2%	1008	21.0%	1,102	22.0%	1,301	20.3%	1482	23.4%
心臓血管外科							3	0.0%	32	0.5%
脳神経外科	169	5.0%	346	7.2%	286	5.7%	449	7.0%	526	8.3%
小児外科	63	1.8%	144	3.0%	328	6.5%	185	2.9%	292	4.6%
整形外科	81	2.4%	132	2.8%	48	1.0%	40	0.6%	127	2.0%
泌尿器科	289	8.5%	69	1.4%	145	2.9%	172	2.7%	110	1.7%
形成外科	2	0.1%	31	0.6%			8	0.1%	11	0.2%
耳鼻咽喉科	19	0.6%	46	1.0%	40	0.8%	69	1.1%	24	0.4%
眼科			29	0.5%	20	0.4%	15	0.2%	14	0.2%
歯科口腔外科	2	0.1%	22	0.5%	1	0.0%	8	0.1%	31	0.5%
保健科							28	0.4%	94	1.5%
救急診療科	19	0.6%	210	4.4%	257	5.1%	200	3.1%	185	2.9%
新生児科	480	14.1%	710	14.8%	551	11.0%	503	7.8%	534	8.4%
産科	158	4.6%	513	10.7%	808	16.1%	533	8.3%	909	14.4%
診療科相談計	3,408	100%	4,791	100%	5,009	100%	5,217	100%	6,321	100.0%
保健医療相談総数	5,500		5,672		5,903		6,414		7,030	
診療科相談の割合	62.0%		84.5%		84.9%		81.3%		89.9%	

## 2. 教育・研修（研修会・講演会等、保健師が主催・実施したもの）

## 内容別実施状況

研修内容	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数
事故予防研修	66	127	153	247	148	217
虐待予防研修	3	274	4	208	2	239
予防接種研修会	2	244	2	138	2	157
時間外電話相談員研修	3	25	3	21	3	21
国際母子保健研修	4	42	0	0	0	0
国際学校保健研修	1	15	0	0	0	0
保健所保健師 母子保健実務者研修	10	42	0	0	2	5
地域保健医療連携研修	20	744	9	311	7	205
在宅療養児支援研修	1	106	2	143	1	48
その他	17	126	7	133	5	14
計	127	1745	180	1201	170	906

## 対象別実施状況

対象	平成元年度		令和2年度		令和3年度	
	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数
保健福祉関係者	45	1573	10	902	17	675
患者・家族、一般県民等	82	172	170	299	153	231
計	127	1745	180	1201	170	906

## 実施内容

研修名	開催日及び場所	内容	対象	参加者数
児童虐待予防のための研修会	令和4年1月24日（月） 場所：あいち小児センター オンライン	講演「こころの不調を抱える 養育者の育児支援」 講師：日本福祉大学 教育・心理学部 准教授 緒川 しおり 先生	市町村・保健所保健師、 子育て支援担当課、要対 協担当課、児童相談所職 員等	会場 6人 Web 52台
周産期子育て支援研修	令和3年11月1日（月） 場所：あいち小児センター オンライン	1. 講演「周産期のこころのケア」 講師：名古屋大学 心の発達支援研究実践センター 教授 永田 昌子 先生 2. 支援者交流会	小児科・周産期医療機関 及び市町村・県保健医療 福祉関係者	会場 13人 Web 60台

第1章 保健活動概要

<p>愛知県医療機関虐待対応 ネットワーク事業</p>	<p>令和3年9月13日(月) 場所：あいち小児センター オンライン 後日配信</p>	<p>講演「子どもへの性虐待・性暴力を予防するために」 講師 咲江レディスクリニック 丹羽 咲江先生</p>	<p>医療機関、児童相談所 市町村保健センター、市 町村要対協担当者等</p>	<p>会場 22人 Web 159回 後日視聴 250回</p>
<p>保健所保健師母子 保健実務者研修</p>	<p>令和3年7月29日(木) 令和3年10月22日(金) 場所：衣浦東部保健所</p>	<p>保健所保健師の担当事例について、家庭訪問やケースカンファレンスの同道により、アセスメントや支援の視点についてOJT形式で研修を行った</p>	<p>愛知県人材育成ガイドラインでキャリアレベルA-2またはA-2の獲得を目指す保健所保健師</p>	<p>延べ 6人</p>
<p>保健師のための専門講座</p>	<p>令和3年10月13日(水) 場所：あいち小児センター</p>	<p>講義「乳幼児の視覚の発達と乳幼児健診診査における視覚検査の意義について」 講師：あいち小児センター 視能訓練科主任 堀 普美子氏 講義「新生児及び乳幼児健診における聴覚評価の意義と早期治療・早期療育の重要性について」 講師：あいち小児センター 言語聴覚科長 浅見 勝巳氏</p>	<p>市町村保健師、保健所保健師</p>	<p>46人</p>
<p>在宅療養児支援研修会</p>	<p>令和3年10月11日(月) 場所：あいち小児センター オンライン</p>	<p>1. 講演「医療的ケア児を地域で支えるために」 講師：愛知県医療療育総合センター 中央病院副院長 三浦 清邦先生 2. 講演「医療的ケアが必要な子どもと家族が地域で共に暮らしていくために」 講師：田原市障害者総合相談センター長 新井 在慶氏 3. 支援者交流会</p>	<p>県内の訪問看護ステーション職員、相談支援専門員、 県保健所・市町村に勤務する保健師・障がい担当者等</p>	<p>会場 3人 Web 39台</p>
<p>母子健康診査マニュアル関連</p>	<p>研修会 令和3年10月14日(木) オンライン 保健所主催マニュアル還元等会議 コロナウイルス感染拡大のため、中止もしくは資料配布で実施</p>	<p>研修会 講義「愛知県母子健康診査マニュアル(第10版)～支援対象者のフォローアップと評価」 講師：あいち小児センター保健センター 保健室長 杉浦 至郎先生</p>	<p>市町村母子保健主管課職員、県保健所職員 保健所・市町村母子保健担当者</p>	<p>Web 71台 計71台</p>

<p>時間外電話相談員研修</p>	<p>第1回 令和3年11月1日(月)</p> <p>第2回 令和4年1月24日(火)</p> <p>第3回 令和4年3月5日(土)</p> <p>場所：あいち小児センター オンライン</p>	<p>&lt;第1回&gt; 周産期医療現場スタッフと取り組む子育て支援に関する研修会受講による研修</p> <p>&lt;第2回&gt; 児童虐待予防のための研修会受講による研修</p> <p>&lt;第3回&gt; 事例検討「対応に困った事例」 講演「育児支援におけるアセスメント」 助言者・講師：愛知医科大学病院 心のケアセンター技師長 臨床心理士 古井 由美子氏</p>	<p>時間外電話相談員</p>	<p>第1回 10人</p> <p>第2回 7人</p> <p>第3回 4人</p> <p>計21人</p>
<p>愛知県予防接種基礎講座</p>	<p>共催：愛知県感染症対策局感染症対策課</p> <p>第1回 令和3年12月12日(日)</p> <p>第2回 令和4年1月16日(日)</p> <p>場所：あいち小児センター オンライン</p>	<p>&lt;第1回&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の予防接種の仕組み～定期接種と任意接種～</li> <li>・免疫のシステムとワクチンの働き</li> <li>・ワクチンの種類と構成物</li> <li>・ワクチンで予防できる疾患</li> <li>・予防接種後の有害事象対応</li> <li>・特別な背景を持つ人への予防接種</li> </ul> <p>&lt;第2回&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチン忌避とのかかわり方</li> </ul> <p>&lt;第2回&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチンスケジュールについて・接種間隔の変更</li> <li>・愛知県の予防接種に関する取り組みについて</li> <li>・予防接種間違いを防ぐための工夫</li> <li>・ワクチンの在庫管理について</li> <li>・アナフィラキシー/血管迷走神経反射への対応</li> <li>・予防接種後の有害事象反応</li> <li>・成人への予防接種</li> </ul> <p>&lt;講師&gt;</p> <p>岐阜大学大学院医学研究科感染症寄附講座 手塚 宜行先生 安城厚生病院小児科 鈴木 道雄先生 江南厚生病院小児科 後藤 研誠先生 藤田医科大学病院小児科 河村 吉紀先生 愛知県感染症対策局感染症対策課 杉山 彰良氏 あいち小児センター 総合診療科</p>	<p>行政予防接種担当、医療機関予防接種従事者等</p>	<p>第1回 会場 10人 Web 73台</p> <p>第2回 会場 8人 Web 66台</p> <p>計18人 計139台</p>

第1章 保健活動概要

関係機関対象研修		伊藤 健太先生、 小川 英輝先生 奥村 俊彦先生 同 救急科 樋口 徹先生		
	愛知教育大学養教養成課程研修 令和3年7月7日(水) 場所：あいち小児センター	保健センター保健師の活動と学校保健との連携について 担当：保健室保健師	愛知教育大学養護教諭養成課程 3年生	37人
	中部大学 令和3年7月27日(火) 場所：あいち小児センター	講義「小児慢性疾患児や医療的ケア児の保育及び地域連携について」 担当：保健室保健師	中部大学現代教育学部幼児教育学科	8人
	愛知県看護協会研修 令和3年11月26日(金) 場所：オンライン	講義「あいち小児センターから医療的ケア児を地域へつなぐ取り組み」	愛知県内の保健師・助産師・看護師	Web 33台
	松戸市幼児健診従事者研修会 令和3年1月31日(月) 場所：オンライン	講義「健やかな親子関係の確立に向けた幼児健診現場における相談支援」	松戸市乳幼児健診従事者等	43人
	主催：成育医療センター アドボカシー研修 令和4年1月21日(金) 場所：オンライン	ミニレクチャー「市町村保健センター保健師ができること」	後期研修医等	46人
家族支援関連	NICU卒業児の親の会(にこにこの会) ①令和3年7月16日(金) ②令和3年9月17日(金) ③令和3年11月19日(金) ④令和4年3月4日(金)  医療的ケア児を持つ保護者の会(ぼこあぼこ) ①令和3年9月4日(土) ②令和4年2月5日(土) 場所：あいち小児センター 2回目はオンライン併用	NICU卒業児の会(にこにこの会) 染色体異常を持つNICU卒業の親支援グループ  医療的ケア児の会(ぼこあぼこ) 医療的ケアを抱える親支援グループ	NICUを入院中、または退院後概ね3か月までの子どもを持つ保護者  医療的ケアを抱える子ども の保護者	①2人 ②2人 ③0人 ④0人 延べ4人  ① 5人 ② 14人 延べ19人

第1章 保健活動概要

<p>事故予防</p>	<p>事故予防教室（定例） 毎月第3土曜日（4月、3月除く 定例外に回実施）  随時指導  場所：あいち小児センター</p>	<p>事故予防ハウスでの事故予防教育・事故予防指導</p>	<p>乳幼児を持つ家族及び事故予防教育に関心のある県民  外来・入院患者の家族 事故により救急外来を受診した家族</p>	<p>教室 定例 13回 49人 定例外 6回 14人 随時 129回 154人  計 217人</p>
<p>アチエメック健康スクール</p>	<p>健康スクール外来 毎月第2土曜日  健康スクール講話 令和3年12月24日（金）  場所：あいち小児センター</p>	<p>スクール ・診察、身体測定、医学的検査、栄養指導、運動指導、生活習慣指導、歯科診察（希望者）  講話 ・健康を学ぼう</p>	<p>学校健診等で肥満による生活習慣病の予防が必要とされた子ども及び保護者</p>	<p>スクール 延べ27人  講話 1人  計 28人</p>
<p>愛知県小児保健協会</p>	<p>令和4年1月23日（日）  場所：あいち小児センター</p>	<p>特別講演 「COVID-19の自宅/宿泊施設療養の小児の電話診療（静岡市方式）から見えてくるもの」 講師：静岡厚生病院 小児科 田中 敏博先生 一般演題発表 4題</p>	<p>愛知県内で小児保健に携わる関係者等</p>	<p>会場 10人  Web 59台</p>

## 第1章 保健活動概要

### 3. 調査・研究

#### 3-1. 論文と学会発表・講演等実績

本年度の学術活動の結果として論文等の誌上発表を20本（うち英語論文5本）行い、筆頭演者として9演題の学会発表を行なった。

3-2. 以下の合計6つの厚生労働科学研究費補助金各研究事業研究班の研究分担者や研究協力者として研究を行い、合計10本の報告書を作成した。

【厚労科研】「母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究」

（研究代表者 山梨大学社会学講座 山縣然太郎）

「母親のヘルスリテラシーに関連する社会経済的因子と情報源の検討」

【厚労科研】「特定妊婦に対する支援の均てん化に向けたアセスメントツール及び多職種連携地域支援プログラムの開発と社会実装についての研究」

（研究代表者 国立成育医療センター 立花良之）

「特定妊婦に関する情報共有の実態調査」

【厚労科研】「子育て包括支援センターの全国展開に向けた体制構築のための研究」

（研究代表者 母子保健推進会議 佐藤拓代）

「都道府県や県型保健所による子育て世代包括支援センターの機能強化支援のための研究」

【厚労科研】「わが国の至適なチャイルド・デス・レビュー制度を確立するための研究」

（研究代表者 名古屋大学 沼口敦）

活動として、児童相談所との協議の場を設ける予定であったがコロナのため中止となった。

【厚労科研】「乳幼児の発育・発達、栄養状態の簡易な評価手法の検討に関する研究」

（研究代表者 国立保健医療科学院 横山徹爾）

「乳幼児の栄養状態の簡易な評価手法の開発」

【厚労科研】「身体的・精神的・社会的 (biopsychosocial) に乳幼児・学童・思春期の健やかな成長・発達をポピュレーションアプローチで切れ目なく支援するための研究」

（研究代表者 福岡大学 永光信一郎）

「愛知県乳幼児健康診査情報を用いた情報の利活用と精度管理に関する研究」

## 4. 情報提供

小児保健医療 情報サービス 活動	<ol style="list-style-type: none"><li>1. ホームページの運営 令和元年度の母子保健情報のコンテンツ更新回数は13回、年間ページ閲覧件数2,740,953件のうち、保健部門のページ閲覧件数706,286件であった。患者・家族会との連携でHP情報の情報を更新した。</li><li>2. 広報誌の発行 あいち小児保健医療総合センターだより「アチェメックの風」計2回（第58号～第59号）発行。</li><li>3. 母子健康診査マニュアル集計報告 愛知県事業である母子健康診査マニュアルの市町村保健センターからのデータを、愛知県保健所を介して集計・分析した。</li></ol>
------------------------	---

課題毎実績

<p>妊娠期からの 児童虐待予防 ・対応活動</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期からの児童虐待予防・対応活動             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 専門家への対応と事例への対応 虐待・虐待予防に関する保健医療相談は1,027件で全相談の14.6%であった。時間外電話相談にも6件の相談があった。</li> <li>2. 院内での虐待の早期発見・支援活動                 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 権利擁護委員会ケース検討会議の実施 今年度新規事例及び前年度からの継続事例に対し個別ケース会議を44回開催した。地域関係機関を含めた検討会議は25回実施した。</li> <li>2) 権利擁護委員会ネットワーク会議の活動と虐待ケースの進行管理の実施 ネットワーク会議は、センター内保健・医療の各部門からの構成員28名で組織され、令和3年度は6回開催し、新規事例30事例について進行管理を行った。センターからは3件の通告を実施した。</li> </ol> </li> <li>3. 周産期からの虐待予防活動                 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 院内での虐待予防活動 平成28年11月に周産期部門（産科・NICU）が開設されたことから胎児異常のある妊婦のメンタルヘルスへの地域を含めた早期介入、家族形成期にある家族のこのころの動揺に対する細やか家族支援を行うこと、虐待予防の観点からも妊娠期から切れ目のない支援を行うことを目的に連携会議を発足させ、平成30年度家族支援委員会となり月1回要支援家族の検討や院内の連携体制の整備、支援内容の充実に向けた話し合いを行っている。</li> <li>2) ハロー・ファミリーカード事業の拡大・充実 令和3年度はプロジェクト参加機関が136機関（医療機関72、保健機関64）となった。</li> <li>3) 保健機関における周産期から乳幼児期の保健活動集約と医療機関等への情報提供 周産期医療機関との連携を図るため、保健機関に対し、妊娠期、乳幼児期の母子保健活動についての情報更新を依頼している。平成29年度からは、母子保健活動に加え子育て世代包括支援センターや児童福祉サービスも一元的に情報提供できるよう様式を変更し、ホームページで発信している。</li> <li>4) 研修会の開催(2.教育・研修 参照)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>◆周産期医療現場スタッフと取り組む子育て支援に関する研修会</li> <li>◆虐待予防のための研修会</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>
<p>時間外 電話相談活動</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専用電話相談窓口「育児もしもしキャッチ」の運営 電話相談員を1日当たり3人として連日実施していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症流行拡大の影響を受け一時休止、その後2人体制週3日で再開令和3年度も1日あたり2人、週3日の体制を継続した。相談員の確保は安定しており必要人員の100%の充足率であった。相談件数は、1,348件で昨年度1,116件から233件増加した。また対応不能件数が300件以上あった。</li> <li>2. 専門相談員の連絡会・研修会・事例検討会</li> </ol>

	<p>相談の質の向上のために3回実施した。時間外電話相談「育児もしもしキャッチ」相談情報分析、育児もしもしキャッチの広報活動としてカード・ポスターの配布、相談員確保の活動を実施した。</p>
<p>子どもの 事故予防活動</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども事故予防ハウスの運営 事故予防ハウスの利用者は170名であった。また事故予防ハウスで実際の浴室や階段、台所における予防策の体験や、当センターで作成したDVD「子どもの事故予防」やパネル等の媒体による事故予防情報の提供を行った。事故体験の募集のために設置したポストに9件の事故体験が寄せられた。</li> <li>2. 子どもの事故予防教室の実施 子ども事故予防ハウスで実施した「子どもの事故予防教室」（近隣住民および子育て支援関係者対象）には19回63名が参加した。</li> <li>3. 調査研究活動 子どもの事故サーベイランス調査を、碧南市（平成14年11月～）、知多市（平成14年12月～）の1歳6か月児健診・3歳児健診で継続して実施した。</li> <li>4. 小児救急事故予防対策事業 平成28年2月に救急棟がオープンし、同3月小児救命救急センターに指定された。以降家庭内の事故等で受診したケースに対して、救急科医師等からの介入依頼が増加し、救急科と保健部門との連携体制を強化することを目的に、平成29年度から小児救急事故予防対策事業を開始した。 事故予防の指導：家庭内の事故等で救急外来を受診した患者のうち、事故予防指導が必要と救急科医師が判断したケース（外来患者・入院患者の家族108名：令和3年度）について、保健師から、事故予防ハウス、事故チェックリストなどを活用して保健指導を実施した。</li> </ol>
<p>在宅療養支援 院内・地域との 連携活動</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケースを通しての院内連携 医療部門からの連絡は総計393件であった。周産期部門との連携体制の構築により、妊娠期からのハイリスクケースの連絡は80件、周産期退院支援スクリーニングシートによる106件であった。 入院中(+産科外来)の連絡件数は302件で、2020年度(167件)より増加した。病棟別連絡件数ではNICUが106件(35.1%)と最も多く、22病棟14件(4.6%)、PICU病棟20件(6.6%)、21病棟23件(7.6%)、23病棟15件(5.0%)、32病棟36件(11.9%)、31病棟11件(3.6%)、20病棟(+産科外来)80件(26.5%)の順に多く、全ての病棟から依頼があった。 外来を含む診療科別連絡件数は、新生児科106件(27.0%)、産科80件(20.4%)、循環器科35件(8.9%)、脳神経外科32件(8.1%)、総合診療科28件(7.1%)、神経科27件(6.9%)、救急科19件(4.8%)、外科11件(2.8%)、の順に多かった。</li> <li>2. 地域との連携 地域からの連絡は31件であった。連絡元は市区町村の保健センターからが22件(71.0%)大多数を占め、内容は受診内容に関する問い合わせがほとんどであった。</li> <li>3. 在宅療養支援におけるカンファレンスの状況</li> </ol>

	<p>在宅療養等に向けたカンファレンスを158回開催し、うち71回は訪問看護ステーションや福祉機関、保健機関等の院外関係者を招いて開催した。</p> <p>4. 在宅療養児支援研修 平成17年度から、訪問看護ステーションに勤務する看護師等を対象に、小児の受け入れ態勢の充実をめざした研修会を開催している(2.教育・研修 参照)。</p> <p>5. 医療ケア児を育てる保護者のためのグループミーティング 平成26年度から在宅療養児支援研修の一貫として、保護者による交流会の場を設けている。(2.教育・研修 参照)。</p> <p>6. NICU卒業児の親の会(染色体異常、遺伝疾患) 同じ境遇を経験してきた家族同士が交流出来る場、さらに気軽な気持ちで参加できる場を設ける目的で平成29年度に開始した。(2.教育・研修 参照)。</p> <p>7. 母子保健スキルアップ研修 「母子保健における新任期の保健所保健師の人材育成のための実務研修」をテーマにとりあげ、愛知県保健所の採用2年目～4年目の保健師2人を対象とし、母子保健や児童虐待予防に関する幅広い技術及びアセスメント能力の向上を図る目的で実施した。(2.教育・研修 参照)。</p> <p>8. 保健師のための専門講座 母子保健活動における専門的知識を深める目的で平成29年度より実施している。(2.教育・研修 参照)。</p>
<p>子どもと家族のヘルスプロモーション活動</p>	<p>1. こどもの生活習慣病予防教室 「アチェメック健康スクール」(こどもの生活習慣病予防教室)は、内分泌科のアチェメック健康スクール外来を中心とした通年型の活動として実施している。令和元年度参加者は8名(新規4名)であった。年度中にスクールを終了した6名中3名の肥満度が改善した。県内の学校、保健関係者の相談の受け皿、対象児の紹介先の資源として機能している。</p> <p>2. 親子のタバコ対策活動 ホームページやセンター内掲示等の受動喫煙防止の啓発資料作成、掲示を継続。</p>
<p>愛知県予防接種センター事業</p>	<p>1. 接種要注意者、海外渡航者等に対する予防接種の実施 予防接種実施件数971件。平成26年より「愛知県広域予防接種事業」が開始となり、県下54市町村全ての地域で、市外かかりつけ医のもとで予防接種を受けることができるシステムとなり、県内全ての対象者には実施可能となっている。</p> <p>2. 保健医療相談及び情報提供 相談件数959件(うち新型コロナウイルス関連1件) ホームページの情報更新 2022年3月1日より小児への新型コロナワクチン接種後の副反応等に対応する専門相談窓口を開設した</p> <p>3. 研修会の実施 健康福祉部健康対策課との共催で愛知県予防接種基礎講座をweb会議システムにて実施した。第1回(令和3年12月12日)参加者:83名、第2回(令和4年1</p>

	<p>月16日)参加者:74名で、市町村の予防接種担当や医療機関の医師・看護師等が参加した。</p>
国際保健 医療活動	<p>ヤング・リーダーズ・プログラム(名古屋大学大学院医学系研究科・医療行政修士コース):COVID-19のパンデミックのため中止されていたプログラムが一部再開された</p> <p>名古屋大学大学院医学系研究科 医療行政学修士課程一年コース</p> <p>医療行政学修士課程の留学生に対して、小児保健医療等に関する講義をオンラインで行った。</p> <p>実施日程:2021年6月21日(火)</p> <p>医療行政学修士学生、聴講生10名:バングラディシュ、カザフスタン(2名)、カンボジア、ラオス、タイ、マレーシア、インドネシア、(ベトナム、ラオスの聴講生各1名)研修内容:日本の小児保健、学校保健</p>
国際学校保健 活動	<p>1. JICA 課題別研修事業:2021年度「学校保健」コース</p> <p>(1) コース名</p> <p>和文:2021年度課題別研修「学校保健」コース</p> <p>英文:Knowledge Co-Creation Program "School Health 2021"</p> <p>(2) 研修期間:2021年10月18日から2021年11月12日の期間でオンライン開催</p> <p>(3) 研修員と参加国(7か国7名)</p> <p>マダガスカル、ヨルダン、ニジェール、シエラレオネ、スリランカ、東ティモール、ザンビア</p> <p>(4) コース目標</p> <p>日本の学校保健制度や学校における取り組みを理解し、自国の学校保健システム改善に資する政策・制度・改善に係る示唆を得て、自国内の関係者に普及させることを目的とする。</p>
多文化共生支援 活動	<p>1. あいち医療システムの実施</p> <p>愛知県(地域振興部国際課多文化共生推進室)が企画した医療機関等の依頼に応じて、一定レベル以上の知識を持った医療通訳の派遣等を行うシステムの構築を目指した平成23年度のモデル事業の参加を踏まえて平成24年度から本格実施に参加した。</p> <p>個別に通訳依頼があった件数は12件で、昨年度に比べ18件減少した。その内、高度通訳は4件(33.3%)であった。言語別では、ポルトガル語とスペイン語が各4件(33.3%)で最も多く、インドネシア語が2件(16.6%)ベトナム語とフィリピン語が各1件(8.3%)であった。診療科別では泌尿器科・循環器各3件、腎臓科2件、アレルギー科、神経科、眼科、新生児科各1件の利用であった。高度通訳は手術前の麻酔、手術に関する説明や病状悪化に伴う治療方針のインフォームドコンセント等に用いられていた。受付から検査、診察、会計まで一連の利用、手術中の待機等により時間延長のケースが4件(33.3%)あった。</p> <p>7件の電話通訳利用、32件の文書翻訳があった。</p>